



国土交通省・独立行政法人土木研究所 同時発表

平成 25 年 2 月 22 日
国土交通省水管理・国土保全局
砂防部砂防計画課
独立行政法人土木研究所

土研式水位観測ブイをインドネシアの大規模河道閉塞（天然ダム）に設置します

国土交通省は、独立行政法人土木研究所及びインドネシア共和国公共事業省とともに、同国マルク州アンボン島に発生した大規模河道閉塞（天然ダム）において、「土研式水位観測ブイ（投下型）」の設置を 2 月 27 日に行い、インドネシア政府が進める天然ダムの監視観測の強化を支援します。

なお、(独)土木研究所が**実用新案***を保有する土研式水位観測ブイの海外での設置は今回が初めてです。
*実用新案登録第 3149794 (株)拓和との共同出願

2012 年 7 月、インドネシア共和国マルク州アンボン島ワイエラ川において、高さ 170m の大規模河道閉塞（天然ダム）が発生しました。河道閉塞の下流直下には 5,000 人近い住民が居住しており、決壊に伴う災害の危機にさらされていたことから、国土交通省及び(独)土木研究所は JICA を通じた調査団の派遣等を行い、天然ダム決壊に対する早期警戒体制の強化や、緊急監視体制の確立を支援しています。

我が国では、2011 年 9 月の台風第 12 号に伴う豪雨により、紀伊山地を中心に深層崩壊が多数発生し、大規模な河道閉塞（天然ダム）が複数発生しました。その際、(独)土木研究所の開発した「土研式水位観測ブイ（投下型）」が多数活用されました。

今回の取り組みは、当該装置を一部改良し、当該天然ダムに適用してその有効性や、今後の海外における「土研式水位観測ブイ（投下型）」の活用を検証を行うとともに、同国の進める監視観測の強化を通じて、警戒避難体制の整備および危機管理能力の向上に資することを目的としています。

なお、今回の水位観測ブイの設置による水位観測等は、(独)土木研究所とインドネシア公共事業省の共同研究により行われるものであり、2 月 25 日（月）にジャカルタで開催される今後の砂防技術協力に関するワークショップにおいて観測も含めた議論を行うとともに、共同研究協定を締結します。

参考資料 インドネシア共和国アンボン島に形成された天然ダムの概要（別紙 1）
土研式水位観測ブイ（投下型）の概要（別紙 2）
平成 23 年 9 月台風第 12 号災害の概要（別紙 3）

資料配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、筑波研究学園都市記者会
問い合わせ先：

国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課

地震・火山砂防室長	山口 真司	代 表	03-5253-8111
課長補佐	吉野 睦	直 通	03-5253-8466
		F A X	03-5253-1610

独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流チーム

上席研究員	石塚 忠範	代 表	029-879-6700
主任研究員	山越 隆雄	直 通	029-879-6785
		F A X	029-879-6729